

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名 放課後等デイサービスわか

		チェック項目	はい	どちらとも	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	1		・動きが激しい子やパニック対応時にはスペースが足りないと感じることがある。 ・遊び方次第で接触の危険がある。
	2	職員の配置数は適切である	4	1		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5			・現在わかかの出入口と使用している箇所は本来非常用階段であり傾斜がきつい。使用時に注意が必要。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	1		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	1	2	・第三者評価未実施。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			・法人内、外部の研修へ参加し支援の向上につなげている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			・家庭のニーズを聞き、応えている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	2		・アセスメントツールが活用できていない。 ・個人の考えによるものが多い。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	2		・固定化しないように活動案を考え実施。 ・室内での活動に対し、職員が苦手意識がある。スキル上達が必要。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	2		・細かな課題まで決めきれないている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	2		・打合せは実施しているが、活動が決めきれない日がある。事前にしっかり考え共有・発信する必要あり。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1		・その日支援した職員で振り返りを来ない、気付いた点や疑問点を発信。情報が不十分の時がある。 ・いなかった職員にも伝わりやすく共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	2	3		・簡潔にまとめすぎて要点を得ないことがある。 ・言葉足らずであることや事実をそのまま記載できていないことがある。書き手と読み手の受け取り方に差がある。 ・言葉遣いや言い回し等、わかりやすい分を作る。
18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5			・定期的に行ってはいるが、遅れがち。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	1		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	1	2	・医療的ケアが必要な児童の受け入れなし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5			・見学に行ったり情報の聞き取りを実施。 ・見学に行くことで利用者の理解に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5			・わかでの様子をまとめ、伝えることができるようにしている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		2	3	・公園等で遊具を共有するにとどまる。 ・積極的な交流はない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	2		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	2	2	1	・送迎時に利用時の様子を伝えることがメインになりがち。 ・モニタリング、個別支援計画作成前に、保護者へお子さんの課題等を聞き、理解している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	2	1	・送迎時や連絡帳で保護者の困りごと等の相談を受けている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1		・話を聞くにとどまることが多い。 ・相談を受けた場合、答えられるものは答えたり、保護者と対応方法を検討するにとどまる。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5			・数年ぶりに茶話会を実施。定期的で開催していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			・苦情受付の窓口を設けている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	1		・連絡はしているもののギリギリになることがある。 ・毎月の利用決定表に簡単なおたよりを記載。
	35	個人情報に十分注意している	5			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			・口頭のみでなく、付箋等も使用しわかりやすく伝えていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		3	2	・感染症の影響で法人内での実施のみ
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1	1	・マニュアル作成はしているが保護者への周知へ至らず。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			・避難訓練を定期的に行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			・定例会議にて話し合いを行う。法人内研修実施。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	3		・保護者からの情報に基づき対応。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			・ひやりはっと・事故報告一覧を作成し共有。アルバイト・パート職員へも共有。